

第82回コンクール課題 (テーマ=動物)

幼年 (えんぴつ)

ぶ	は	な	ぞ
ら	な	が	う
り		い	さ
			ん

小三年 (えんぴつ)

動	め	子	ふ	カ
物	ず	を	く	ン
の	ら	育	ろ	ガ
な	し	て	の	ル
か	い	る	中	ー
ま			で	は
で				
す				

小六年 (ペン)

堂	何	動	草	ラ
々	も	物	原	イ
と	の	の	で	オ
生	を	王	群	ン
活	も	様	れ	は
し	お	ら	を	
て	そ	し	作	
い	れ	く	り	
る	ず			

小一年 (えんぴつ)

お	か	コ	赤
ん	あ	ア	ち
ぶ	さ	ラ	ゃ
	ん		ん
	に		

小四年 (ペン)

全	体	足	速	地
身	は	が	い	上
ば	し	長	チ	で
ね	な	く	ー	い
の	や		タ	ち
よう	か		ー	ば
だ	て		は	ん

中一年 楷書 (ペン)

人	自	保	多	絶
類	然	護	く	滅
の	を	す	の	し
責	破	る	動	か
任	壊	こ	物	け
で	し	と	た	て
あ	て	は	ち	い
る	き		を	る
	た			

小二年 (えんぴつ)

じ	た	高	キ	首
ょ	べ	い	リ	の
う	る	木	ん	な
ず	の	の	さ	が
ね	が	は	ん	い
		を		

小五年 (ペン)

め	住	中	人	あ
ず	ん	国	気	ど
ら	で	お	者	け
し	い	く	バ	な
い		地	ン	い
動		に	ダ	表
物		だ	は	情
		け		の

中二・三年 行書 (ペン)

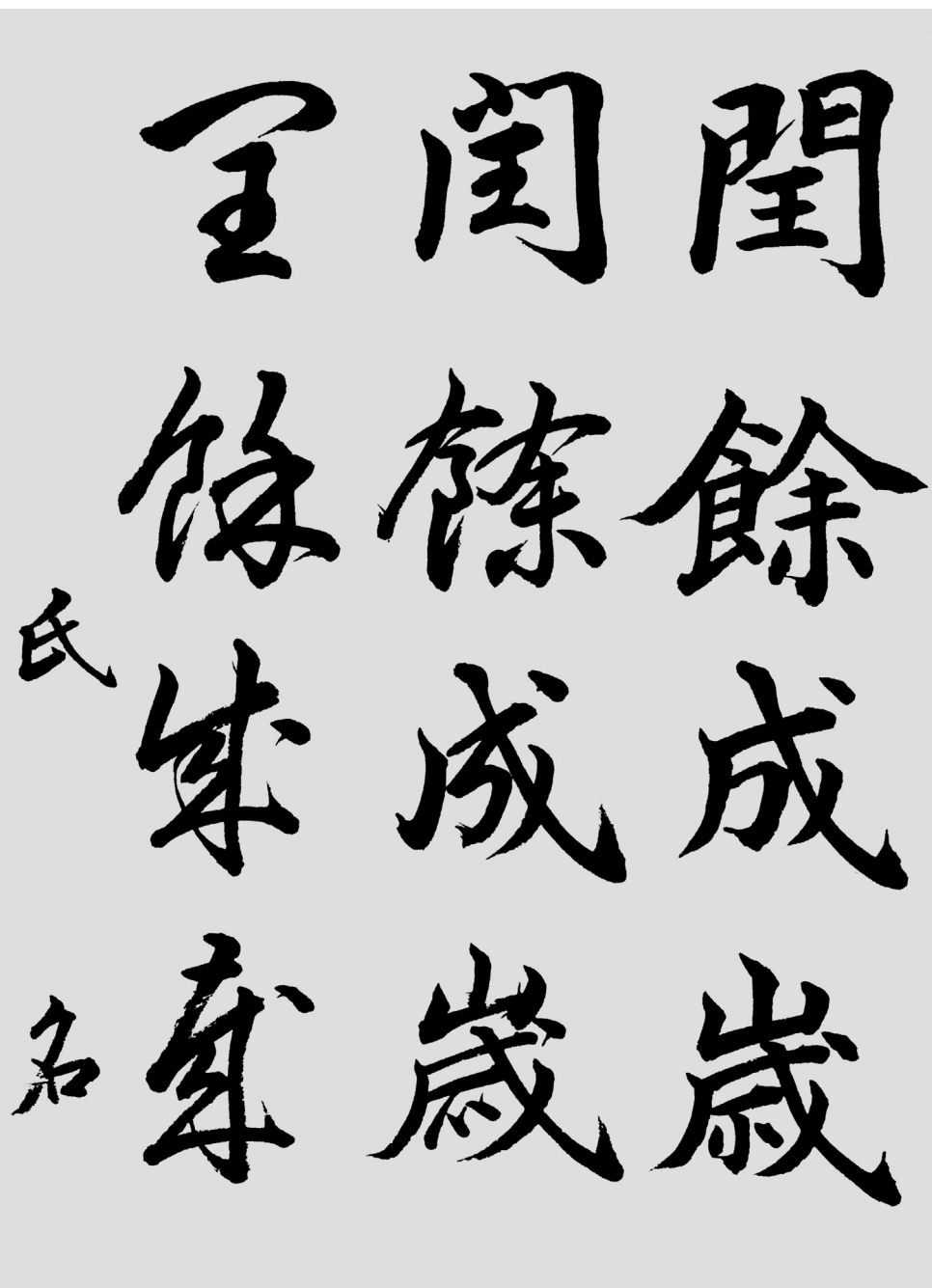
人	自	保	多	絶
類	然	護	く	滅
の	を	す	の	し
責	破	る	動	か
任	壊	こ	物	け
で	し	と	た	て
あ	て	は	ち	い
る	き		を	る
	た			

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小五までは上一段あけて書いて下さい。句読点は省略します。

三体千字文を書く(7)

締切り 七月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

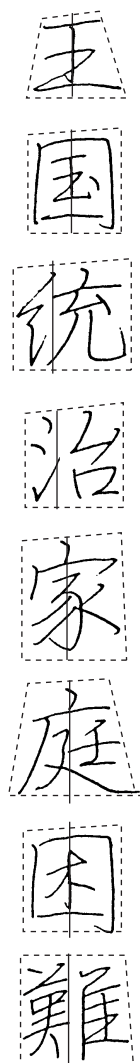
閏餘成歳
律呂調陽

閏月によって一年を完成させ、律呂によって陰陽をととのえる。

準初段から六段まで

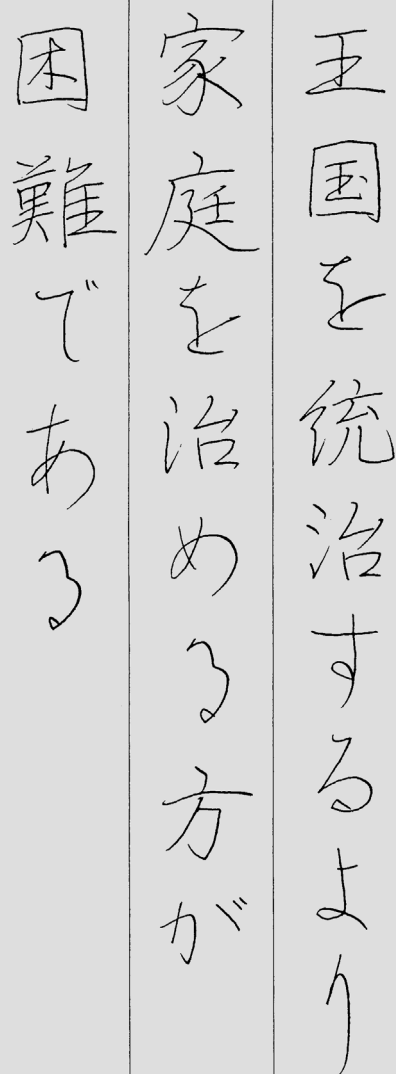
新入から1級まで

〔解説〕



◎行書は動きのある暢達した線で、円みのある字形でリズムよく書こう。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

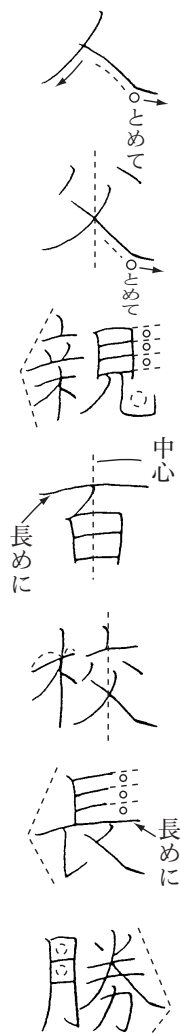


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

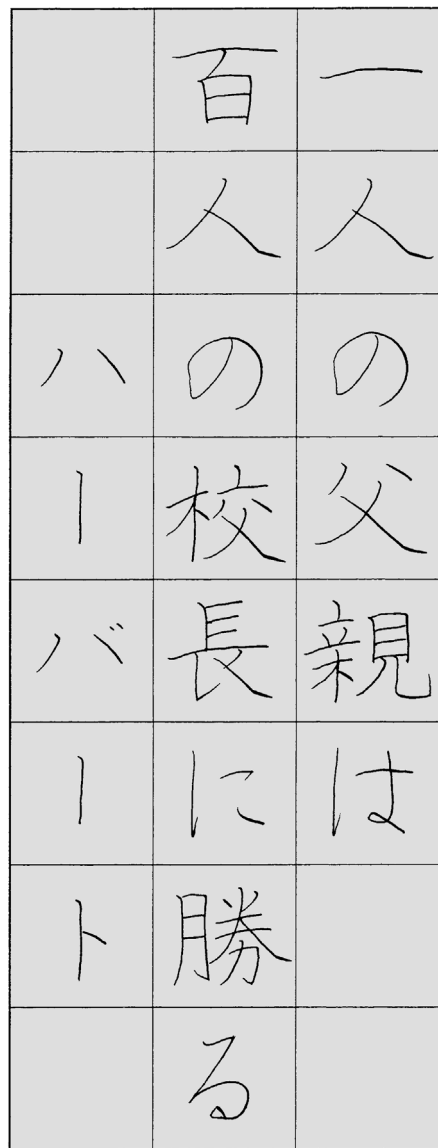
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



中心
長めに



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝楷書
▼師範＝行書

断じて敢行すれば
鬼神もこれを避く
司馬遷

◆8月課題予告（行草または草書）

王国を：（書体＝行書）
モンテニユ（五三〇九）
フランスの思想家
家庭を持っている方なら、ついうな
づいてしまうのではないだろうか。
強い権力を用いれば一国を統治するこ
とは可能でしょう。しかし、強大な権
力をそれぞれに持つ家族と平穩に暮ら
すのは容易なことではありません。深
い深い愛情が不可欠なのです。

泣きながら習うと
やがては
笑いながら稼ぐ

◆8月課題予告（行書）

一人の：（書体＝楷書）
ハーバート（五三〇九）
イギリスの詩人・牧師
子供が学校教育を受ける年齢に達す
るまでに、すでに教育の大半は終わっ
ています。つまり、人生の基盤となる
道徳観や倫理観は、そのころまでに
出来上がってしまうのです。幼少時の親
の影響力の大きさ、教育の大切さを伝
えています。

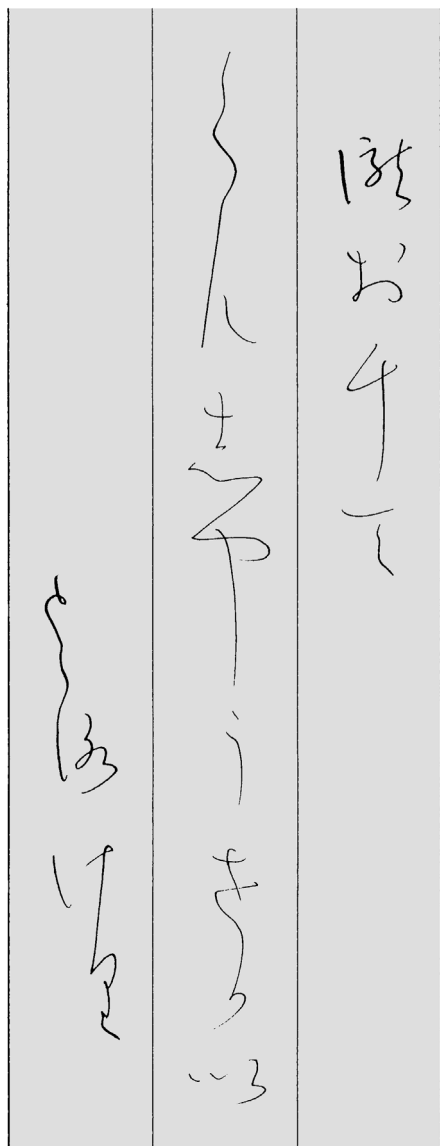
一般部かな課題

締切り 7月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

(龍)お 千 天 くん 志やう 可以 路 里
滝落ちて群青世界とどろけり

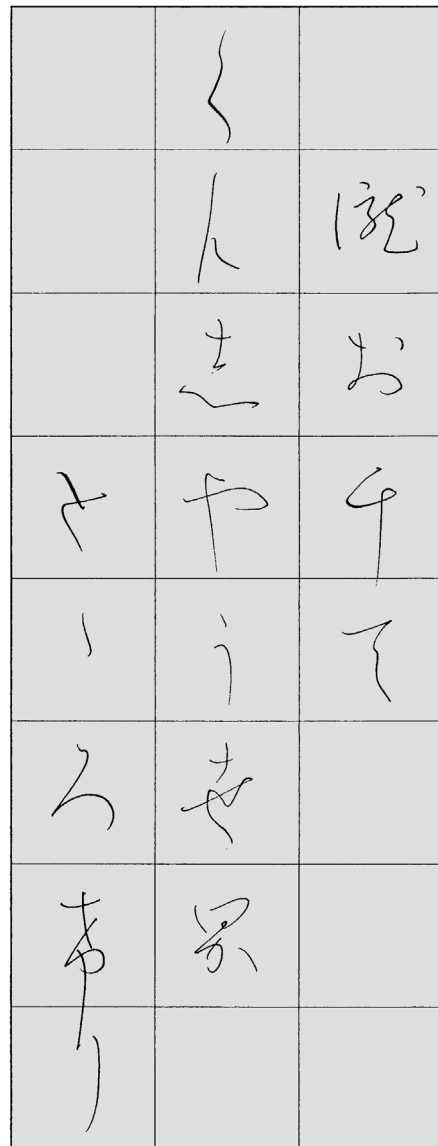


おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会段位用紙

(龍)お 千 天 くん 志やう 希
滝落ちて群青世界とどろけり



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

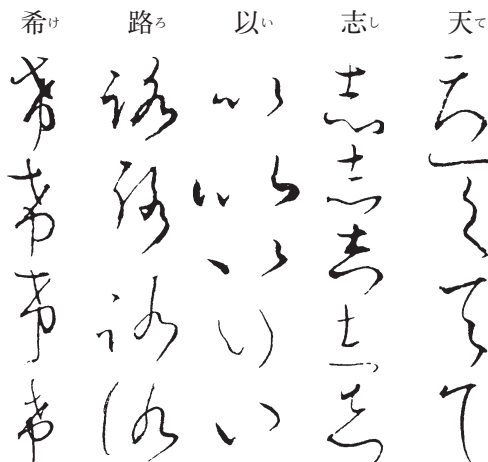
▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会級位用紙

◆8月課題予告

えんてん とほ ほ
炎天の遠き帆やわがこころの帆

(山口誓子)



〔古筆参考〕

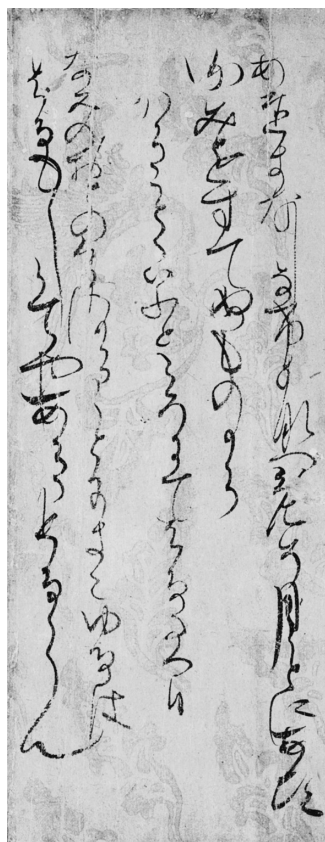
「句意」はるか天の彼方の高みから物
すごい音をたてながら、雄壮な滝がと
どろき落ちてくる。その轟音は、濃い
常緑の木々に覆われた、群青の山全体
に響きわたっていることである。

たきお ぐんじやう せかい
滝落ちて群青世界とどろけり

(水原秋桜子)

〔古筆参考〕

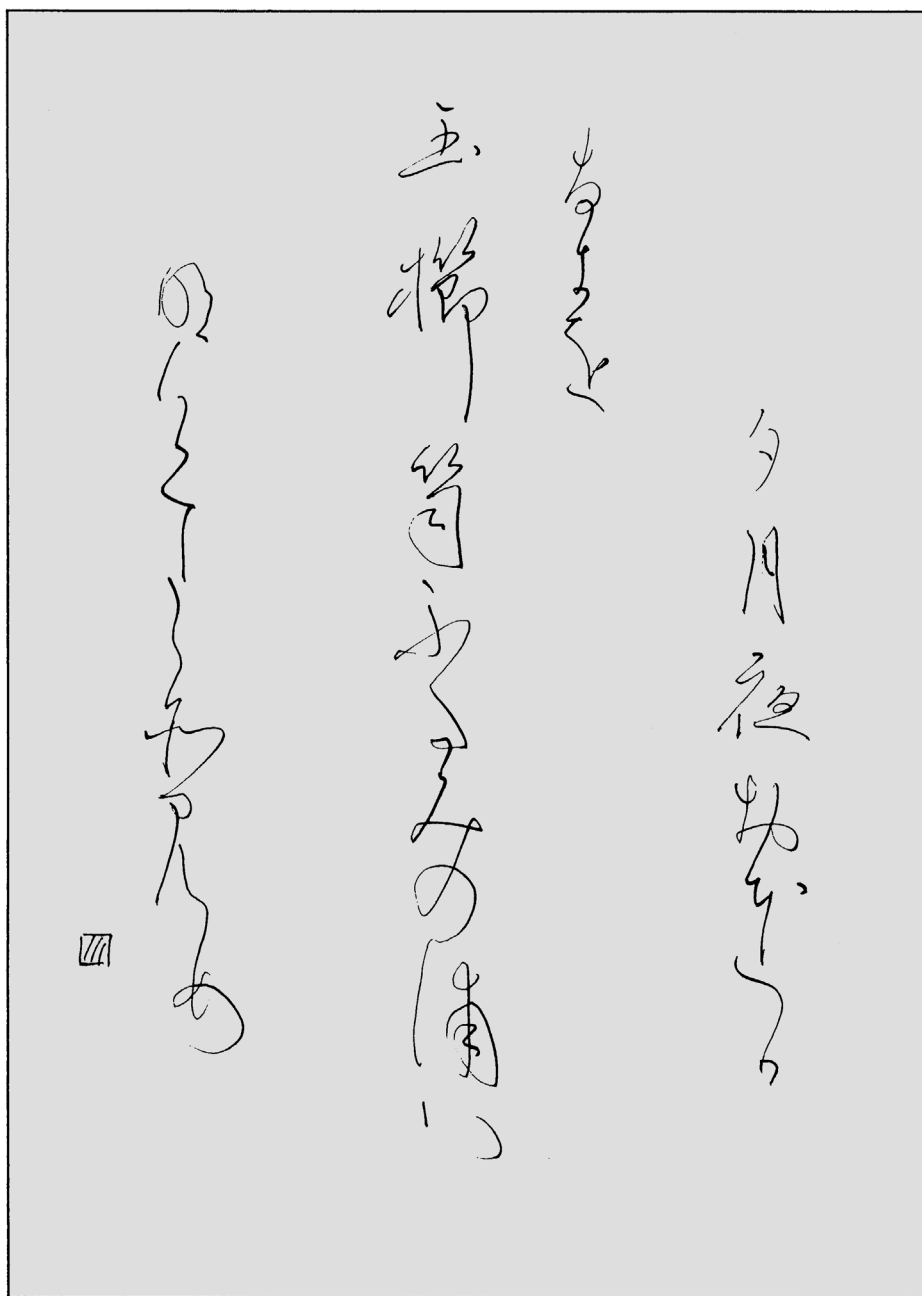
ほん あ み ぎれ
本阿弥切



あぢきなしなげきなつめそ月ごと
にあひく
るみ（ば）すてぬものから
からことゝいふところにては
るたつ日
なみのおとのけさからことにきこ
ゆるは
はるもしらでやあらたまらん

締切り 七月二十五日（必着）

築瀬舟香書



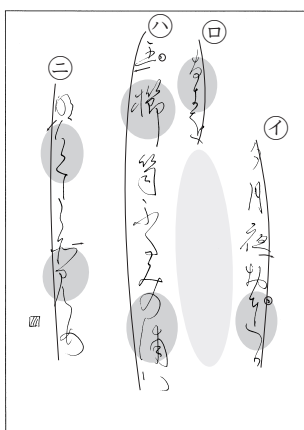
〔ゆふぐよ〕本可奈文 藤原兼輔
夕月夜おぼつかなきを玉櫛笥
ふたみの浦はあけてこそ見ぬ

〔歌意〕夕方の月が出て、あたりはぼんやりと暗くなってきた。美しい櫛笥の箱は、ふたとみを開けてみるというのにちなんで、有名なふたみの浦も、夜が明けてから見物することしよう。

〔出典〕古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と④、③と⑤、④と⑥、それぞれ呼応。
- 大きな間。
- 行の中の密の動き注意。
- の方向大切。
- 点の位置注意。

本阿弥切の特徴(三)

- 余白と線と書のバランスの良さ。
 - 書写形式が自由である。
 - 筆の弾力を利用して変転自在。
 - 古筆の中に同筆作品がない。
- 以上のような特徴を持っています。

参考資料「日本書道辞典」

「古筆に学ぶ」共に二玄社

◆8月課題予告

ひととせ
一年にひとたび来ます君待てば
宿かす人もあらじとぞ思ふ

締切り 7月25日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイデアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます
大輪の朝顔に爽快な夏の朝を迎えています
小川のせーらぎもこころよい 一度お越しください
平成二十四年盛夏

平成二十四年盛夏

暑中お見舞い申し上げます
大輪の朝顔に爽快な
夏の朝を迎えています
小川のせーらぎも
こころよい
一度お越しください

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

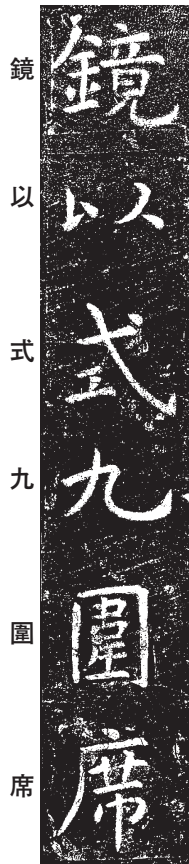
筆力は、筆圧の強弱と運筆速度の
緩急の変化によって生まれます。

千葉県我孫子市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日（必着）



鏡以式
九圍席

準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
〔読み〕（玉）鏡を（明らかにして）以て九圍に式り、（蘿図を）席して

德厚者
流光

新入から1級まで（楷書）

澤静雨書

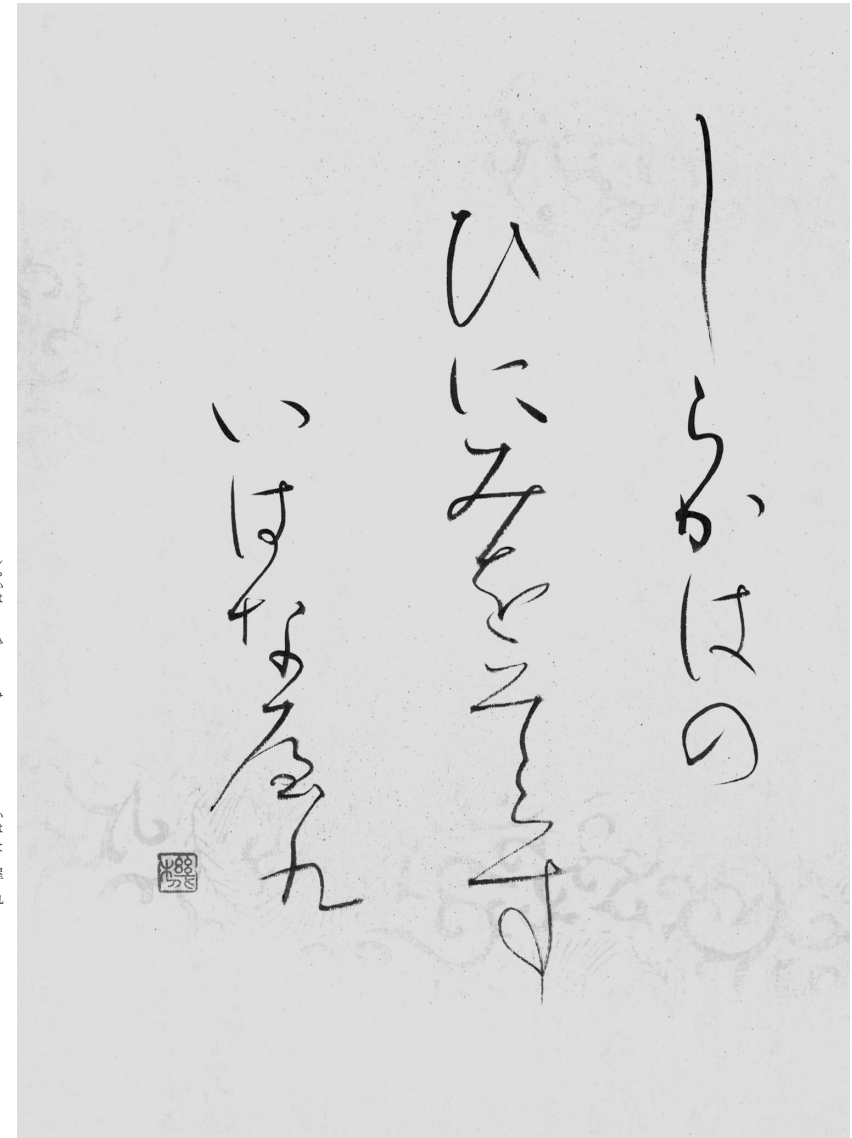
〔読み〕德厚き者は光を流す。
〔大意〕德のある人は自然に世に知られる。

一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

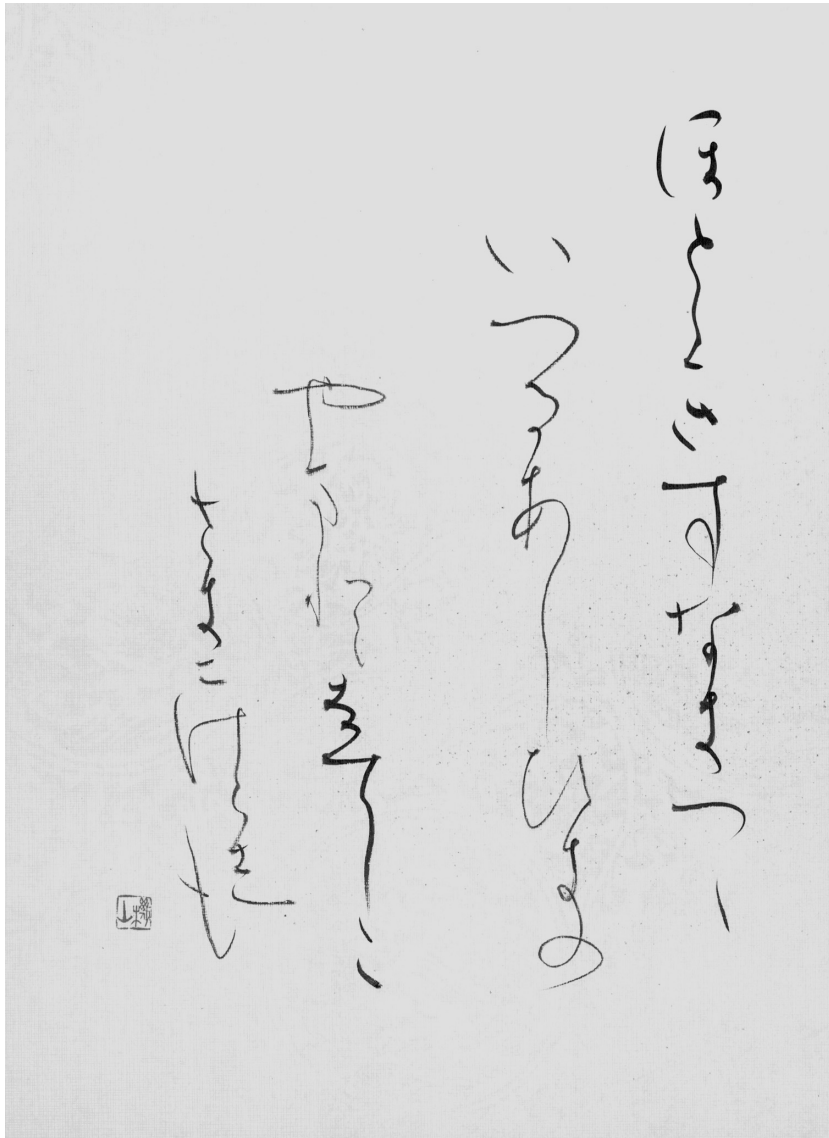


〔出典〕萩原記代

〔句意〕白樺の枝をもやし、釣った岩魚を焼いているのである。大きな岩魚が反りかえりながら焦がされていく。爽涼感ある句。

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕おおなかとみのよしのぶ 大中臣能宣

〔歌意〕ホトトギスが鳴きながら人里へ出てくる山では、もう大和撫子も咲いたらしいなあ。

ほととぎすな
時鳥鳴きつつ出づるあしひきの
やまと撫子咲きにけらしも

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 七月二十五日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）



荻田蒼仙書

四時逸興看花本一片閒心對水雲
〔大意〕春夏秋冬のすぐれた興趣は花やもみじを見るに在る。ただ一片の清閑なる心は水村の雲などにむかうのにふさわしい。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕 初心の方にも、とっつき易いように

書きました。形が平易なので仕上がりが弱くならないように。そのために筆の腰とバネを利かせて線の強さに留意して下さい。

都会の夏は格別の暑さが続くとか

久し振りで皆一緒に山の冷気を

味わいに来ませんか 孫たちにも

夏休みの良い思い出になりますよ

（ご自分の氏名）

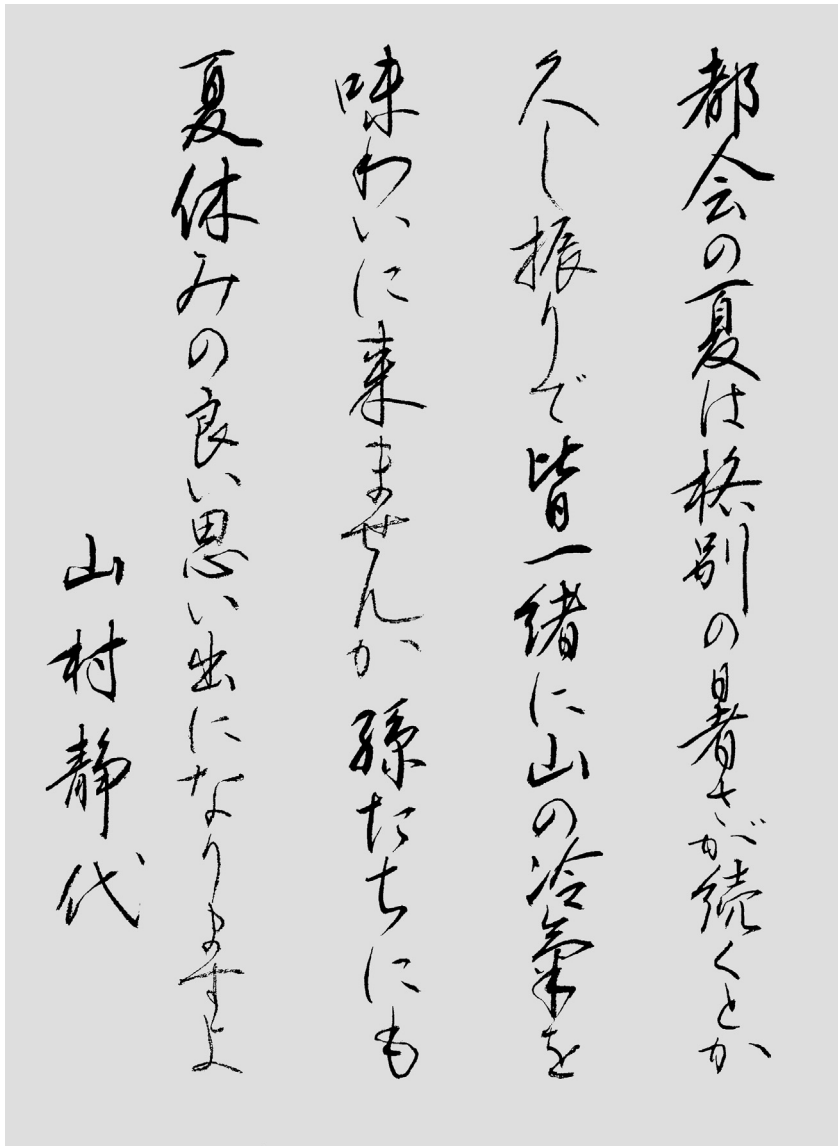
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位～5等）は、評価により毎月変わります。

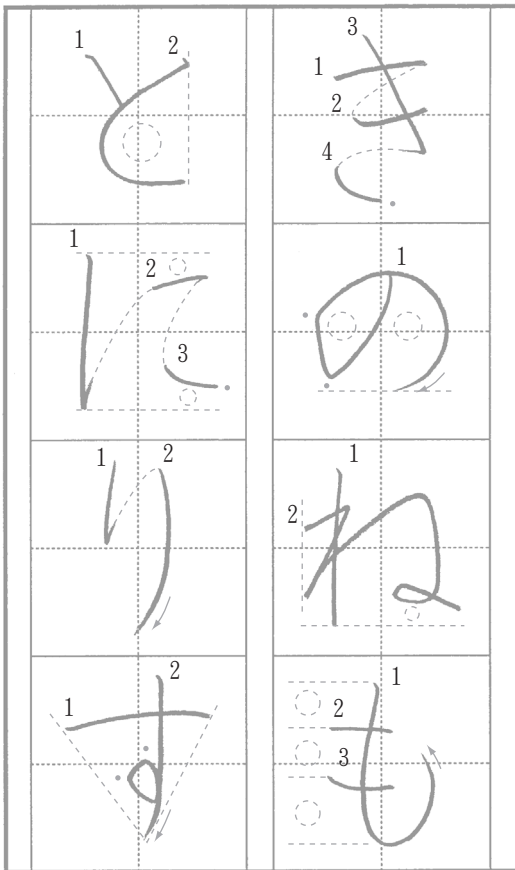
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。



書 華 玲 田 樋

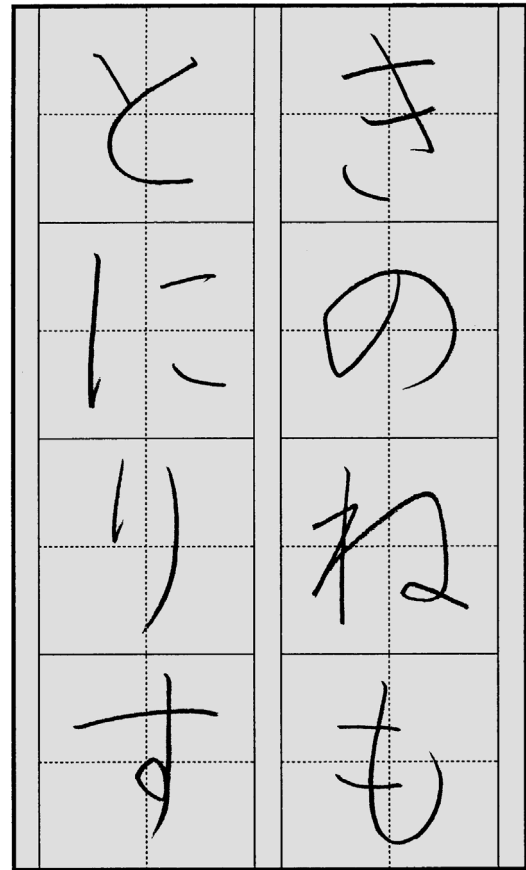
半紙（334mm×240mm）

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



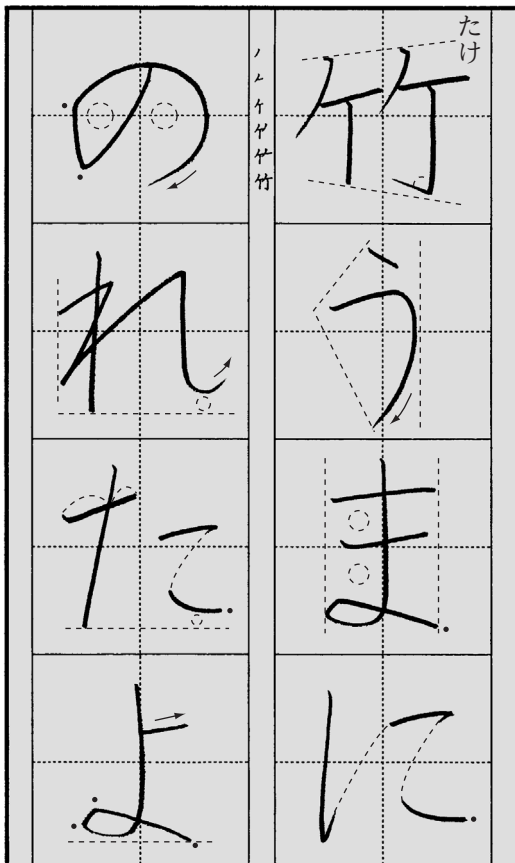
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

さ	星	ほし
ま	の	
見	王	おう
る	子	じ

新入1級

さ	で	え
ま	星	ん
を	の	げ
見	王	き
る	子	会

小 二 年

準初段以上

丸	川	かわ
太	に	
の	短	みじか
橋	い	

新入1級

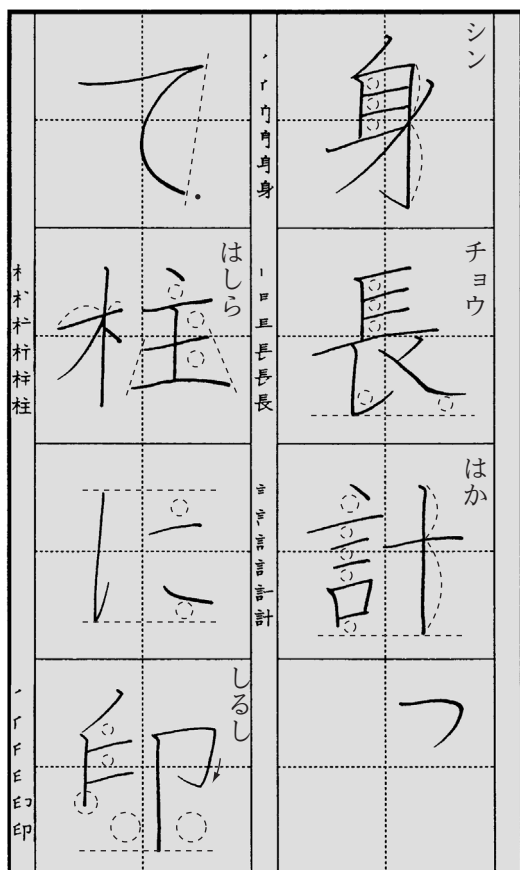
の	た	小
橋	短	川
わ	い	に
た	丸	か
る	太	け

小 三 年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

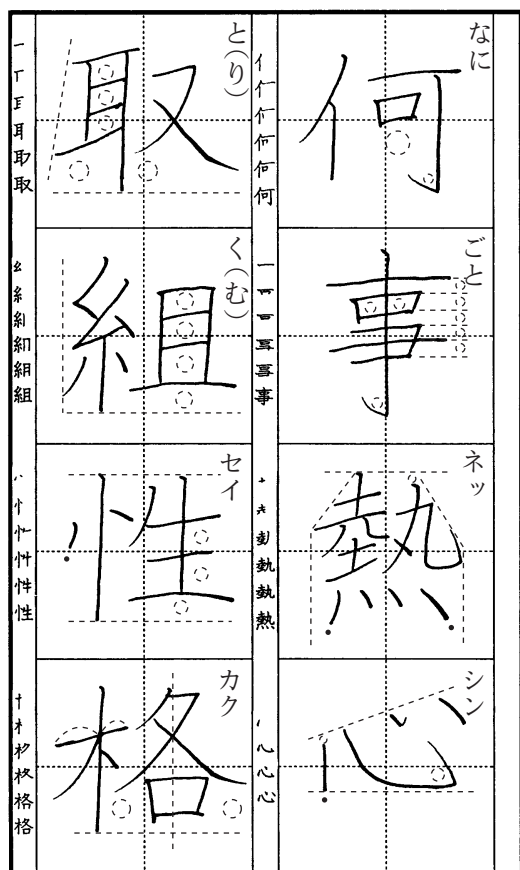
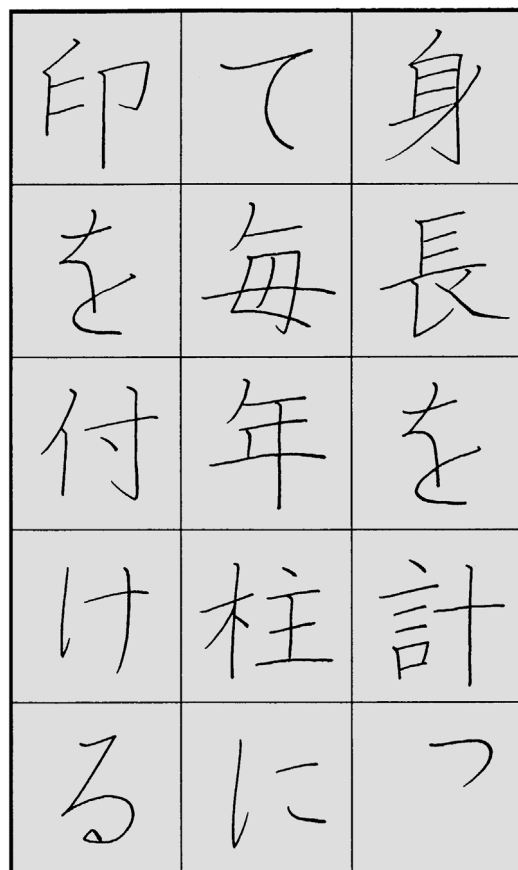
〈用具〉自由(黒色に限る)



新入1級

小四年

準初段以上

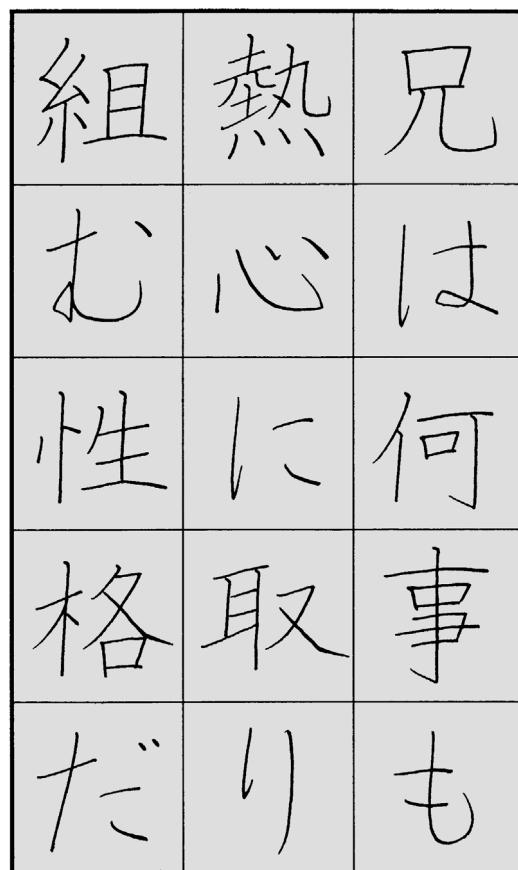


解説(よく見て習いましょう)

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 須田 一葉 書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

度	異
技	芸
感	師
激	高

解説(よく見て習いましょう)

に	の	異
感	高	国
激	度	曲
し	な	芸
た	技	師

小六年

(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。

と	は	運
念	柔	動
入	軟	す
り	体	る
に	操	前

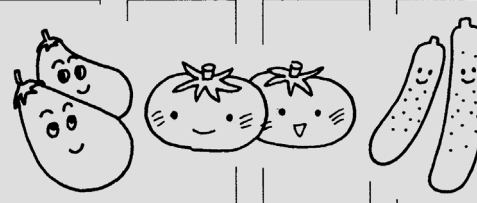
中二・三年 (行書)

朗	放	お
読	送	昼
し	で	の
ま	詩	校
す	を	内

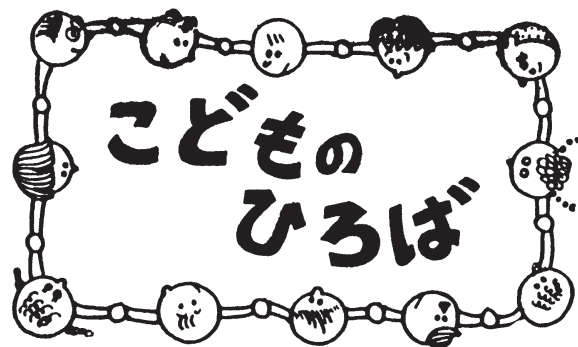
中一年 (行書)

▼小三年以下の課題 さ とう こう えん 佐 藤 香 園 書

大 おお	元 げん	な	ゴ	夏 なつ
に	気 き	す	ー	の
ぎ	な	、	ヤ	畑 はたけ
わ	野 や	き	に	は
い	さい	ゆう	ト	
	で	り	マ	
			ト	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 7月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 や の ち せん 矢 野 千 仙 書

訓 くん	人 じん	お	ラ	海 うみ
練 れん	命 めい	兄 にい	イ	開 ひら
中 ちゅう	救 きゅう	さん	フ	き
で	助 じょ	た	セ	に
す	の	ち	ー	向 む
		が	バ	け
			ー	
			の	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

王子

の

の

幼年
小二年

玉樹
小華書

王子

中心

子ま

小二

うま



小三・小五年

水野香竹書

中二
体柔
操軟

師曲
小六
芸

朗 師

柔 芸

大 中
操 詩

中
朗 詩
読 の